

## 拡張 DM エディタ バージョン 6.0.40 更新記録

2010/06/12  
有限会社ジオ・コーチ・システムズ  
<http://www.geocoach.co.jp/>  
[info@geocoach.co.jp](mailto:info@geocoach.co.jp)

### 1. Windows7 と Java6 対応

従来の Windows と Java 環境に加えて、Windows7 と Java6 にも対応しました。既に運用されている場合、上書きでインストールしてください。

バージョン番号を 1.\*から 6.0.\*(2.49 から 6.0.40)に変更します。

インストール説明書 <http://www.geocoach.co.jp/download/GeoCoach3D-series-6-install.pdf>

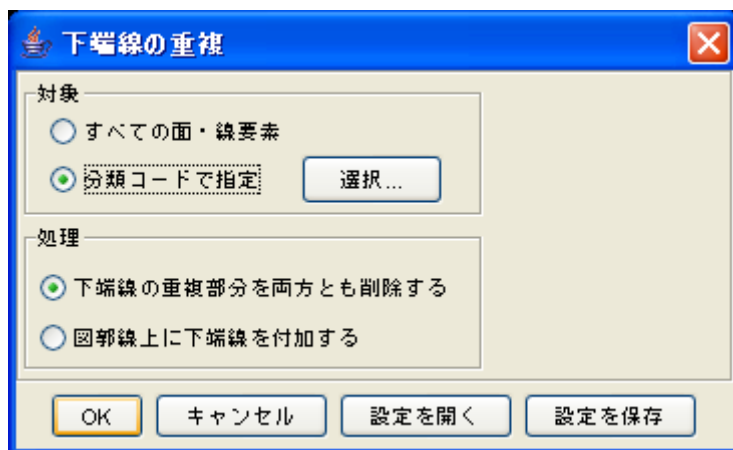
### 2. 拡張 DM の保存を修正

拡張 DM を保存する際に、方向(E6)の位置と方向を示す点の Z 値が同じ場合、属性数値に記録し、二次元座標レコードを出力するように修正しました。従来は、開いた DM の方向(E6)が 3 次元の場合、三次元座標レコードで出力していました。

### 3. 下端線の重複

新メニュー[一括処理]-[下端線の重複]を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

日本測地系で作成されたデータを世界測地系に変換し、図郭を新たに切りなおした場合に、旧図郭線上にあった下端線を削除します。また、新図郭線上に下端線を追加します。

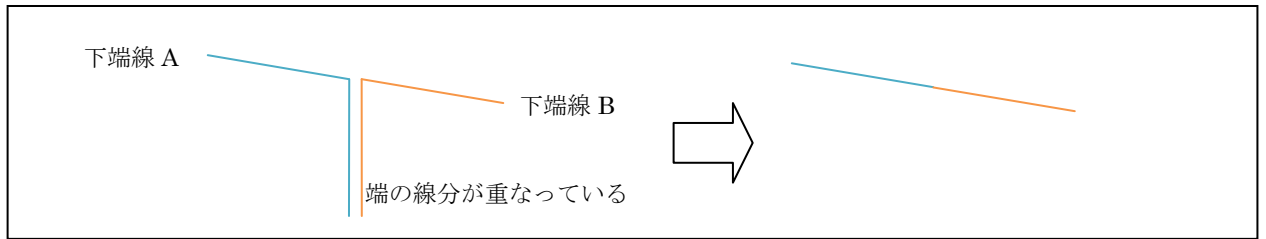


#### 対象

下端線(図形区分=12)を処理する線(E2)の分類コードを指定します。

#### 下端線の重複部分を両方とも削除する

下端線の線分が完全に重なっている場合、両方の線分を削除します。

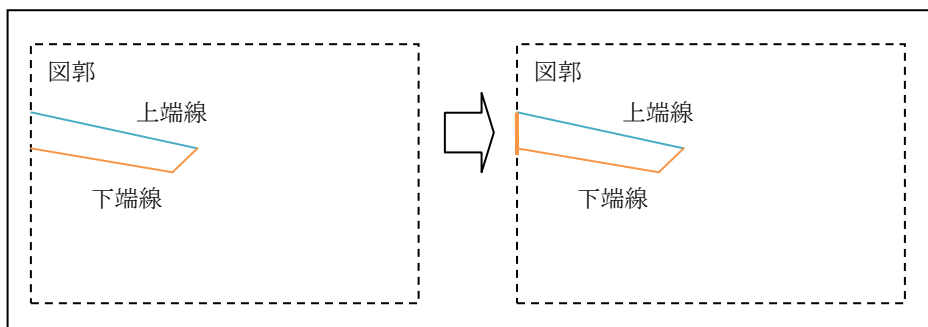


DM データファイル毎、分類コード毎、下端線毎に次の処理を行います。

- ① 下端線の最初と最後の線分について垂直(同じ Y 座標)あるいは水平(同じ X 座標)になっている場合、次の処理へ。線分が水平あるいは垂直でない場合、処理終了。
- ② 他下端線の最初と最後に線分について、始点と終点が一致する線分を探します。一致する線分がなければ終了。
- ③ 重なっている両方の線分を削除します。

#### 図郭線上に下端線を付加する

下端線の端点が図郭線上にあり、反対側の点が上端線の点と一致して、かつその上端線の端点も図郭線上にある場合、下端線の端点から上端線の端点までの線分を追加します。



- ① DM データファイル毎、分類コード毎に次の処理を行います。
- ② 端点が図郭線上にある下端線に注目します。
- ③ その端点が既に上端線の点上にあれば処理終了。
- ④ 下端線の反対側の端点と同じ座標点を持つ上端線を探します。上端線がなければ、チェックリストに表示して処理終了。
- ⑤ 上端線の端点が図郭線上になれば、チェックリストに表示して処理終了。
- ⑥ 下端線に上端線の端点(図郭線上)までの線分(図郭線上)を追加します。

「図郭線上に下端線を付加する」は、下端線や上端線の重複があったり、見掛け上つながっていても別の要素になっていたりとすると、処理の最後まで行きません。

## 4. 要素パネル

「要素」パネルでの編集で、図形区分について、任意の値を設定できるようにしました。(今までは、準則で定義されている値のみの選択でした)

レコードタイプ	
分類コード	<input type="text"/> 変更
(名称)	
要素識別番号	
階層レベル	
図形区分	<input type="text"/> 変更
実データ区分	
精度区分	
注記区分	
転位区分	
間断区分	0.間断しない ▼ 変更
取得年月	

## 5. 注記チェック

メニュー[チェック]-[注記チェック]に「分類コード・字大・字隔で参照し、設定ファイルと同じ図形区分にする」を追加しました。以下、説明書からの抜粋です。

**注記チェック**

開いているDMデータから設定ファイル作成...  図形区分を付加する

設定ファイル名  参照...

チェックと処理

- 設定ファイルにない分類コード・字大の注記をリストアップ
- 設定ファイルにない分類コード・字大・字隔の注記をリストアップ
- 設定ファイルにない分類コード・字大・字隔・線号の注記をリストアップ
- 分類コード・字大で参照し、設定ファイルと同じ字隔、線号にする
- 分類コード・字大・字隔で参照し、設定ファイルと同じ図形区分にする
- 全角スペースを含む注記をリストアップ
- 全角スペースを削除する
- 注記8173(図化機測定標高点・等高線数値)の小数点以下桁数を2から1にする
- 注記8173の値を近くの点(7311,7511)に合わせる
- 半角と全角が混在する注記をリストアップ
- 全角の注記を1文字の注記に分ける
- 要素レコードのデータ数を実際の文字数にする
- 座標が重複する注記をリストアップ

レポートパネル出力

OKリストCSV  指定...

OK キャンセル 設定を保存 設定を開く

(1) 開いているデータから設定ファイル作成

開いているDMデータ全体の注記(E7)からCSVファイルを作成します。

- ・ 1行目

ファイルの内容を識別するための行です。最初の列が「DMAnnotationTable」で識別文字、2列目が「1」か「2」でバージョンを示します。3列目以降はコメントです。

- 2行目  
3行目以下のデータの項目名です。バージョン1では「分類コード」「字大」「字隔」「線号」「個数」「名称」、バージョン2では「分類コード」「字大」「字隔」「線号」「図形区分」「個数」「名称」です。
- 3行目から  
注記の情報です。バージョン1では「分類コード」「字大」「字隔」「線号」、バージョン2では「分類コード」「字大」「字隔」「線号」「図形区分」の組み合わせで、DMデータファイル中の「個数」記録しています。「名称」は「分類コード」の名称です。

チェックボックス「図形区分を付加する」をONにするとバージョン2で、OFFでバージョン1で作成します。バージョン1の例です。

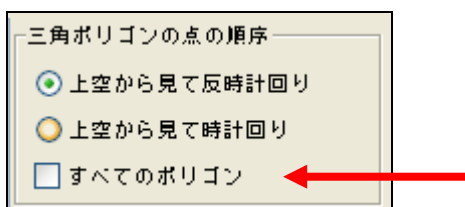
DMAnnotationTable,1,GeoCaoch3D-DM-P,DM データファイルの注記					
分類コード	字大	字隔	線号	個数	名称
8111	45	45	7	12	町・村・指定都市の区
8114	35	35	7	16	大字・町・丁目
8115	30	25	5	15	小字・丁目
8115	30	45	5	1	小字・丁目
8121	30	8	5	6	道路の路線名
8121	30	15	5	28	道路の路線名
8121	30	30	5	8	道路の路線名
8121	30	60	5	1	道路の路線名
8123	30	15	5	2	鉄道の路線名
8125	25	6	4	3	橋
8125	25	13	4	8	橋
8131	25	6	4	36	建物の名称
8151	35	9	5	1	河川、内湾、港、岬、崎、鼻、岩礁、河岸、河原、洲、滝、浜、磯、山、島
8151	35	18	5	2	河川、内湾、港、岬、崎、鼻、岩礁、河岸、河原、洲、滝、浜、磯、山、島
8151	35	35	5	14	河川、内湾、港、岬、崎、鼻、岩礁、河岸、河原、洲、滝、浜、磯、山、島
8151	35	70	5	3	河川、内湾、港、岬、崎、鼻、岩礁、河岸、河原、洲、滝、浜、磯、山、島
8173	15	4	3	594	図化機測定標高点
8181	20	5	4	2	説明注記
8181	20	15	4	6	説明注記

(7) 分類コード・字大・字隔で参照し、設定ファイルと同じ図形区分にする。

開いているDMデータの注記について、分類コード・字大・字隔で設定ファイルを検索し、同じ組があれば、設定ファイル中の図形区分を注記に設定します。設定ファイルに分類コード・字大・字隔の組み合わせが複数ある場合、「個数」が最も大きい行の図形区分を使います。CSVファイルはバージョン2を参照してください。バージョン1の場合、CSVファイル中の図形区分はすべて非区分とみなして処理します。

## 6. TIN テキスト保存

TINのテキストファイル保存で、三角ポリゴンの回転方向指定にオプション「すべてのポリゴン」を追加しました。



【すべてのポリゴン】三角ポリゴンの点の順序指定で、上空から見て反時計回りと時計回りが混在していても、このオプションがONの場合、すべてのポリゴンを指定された順序で保存します。OFFの場合、混在した状態のまま保存します。

## 7. 砂防ダム(6114)

メニュー[チェック]-[その他のチェック]の「射影部の上下端線の方角」で、砂防ダム(5225)に加えて 6114 も対象外にしました。

メニュー[一括処理]-[等高線間断区分]の項目「砂防ダム」で、分類コード 5225 だけではなく 6114 も含めました。